

# 月のリズム



## 農業

### 月のリズムと農業

～太陽・太陰暦から読み取る樹のライフサイクル～

#### 身近な存在「月」の原点

月には昔から「カニやサルがいる」「ウサギが餅をついている」と言ったおとぎ話があるように、なぜか現実的な話であるような圧倒的な存在感を月は持っている。

月の存在感は農業が一番身近なものではないか。かつての暦である旧暦は月の満ち欠け、月齢を取り入れたものであり、それが農事暦となっていた。

例えば京都を代表するスグキ漬けは、タネを播く日が旧暦の8月28日と決められていた。これは、漬け込む時期の気温を考慮したのだろうが、三日月から満月になる頃には、収穫出来るようにしたと言われている。

また、潮の満ち引きにも月と密接な関係がある。新月か満月には月と太陽、地球が一直線上に並び、高低差が大きい大潮となる。また、大潮である満月の夜は魚釣りに適さないとされている。満月に映し出される人の陰や、怪しげな餌を魚が警戒するからである。

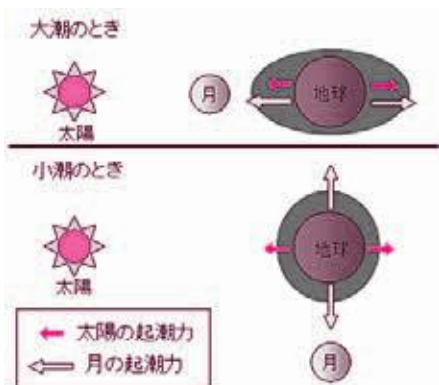
このように、月齢により左右される農業や漁業等は、今も中国や

台湾、イスラム諸国、中南米の農業関係機関が提供するカレンダーには、必ず月齢が記載されているほどである。

このようなことは、果樹においても月齢を基に影響があるとされている。どのような影響があるのかこれから紹介していきたい。

#### ちゅんこつメモ

潮の干満の繰り返しには地球の自転が関係し、潮の干満の高低差には月の引力が関係している。場所によっては潮の満ち引きが2回見る事が出来る場所がある。



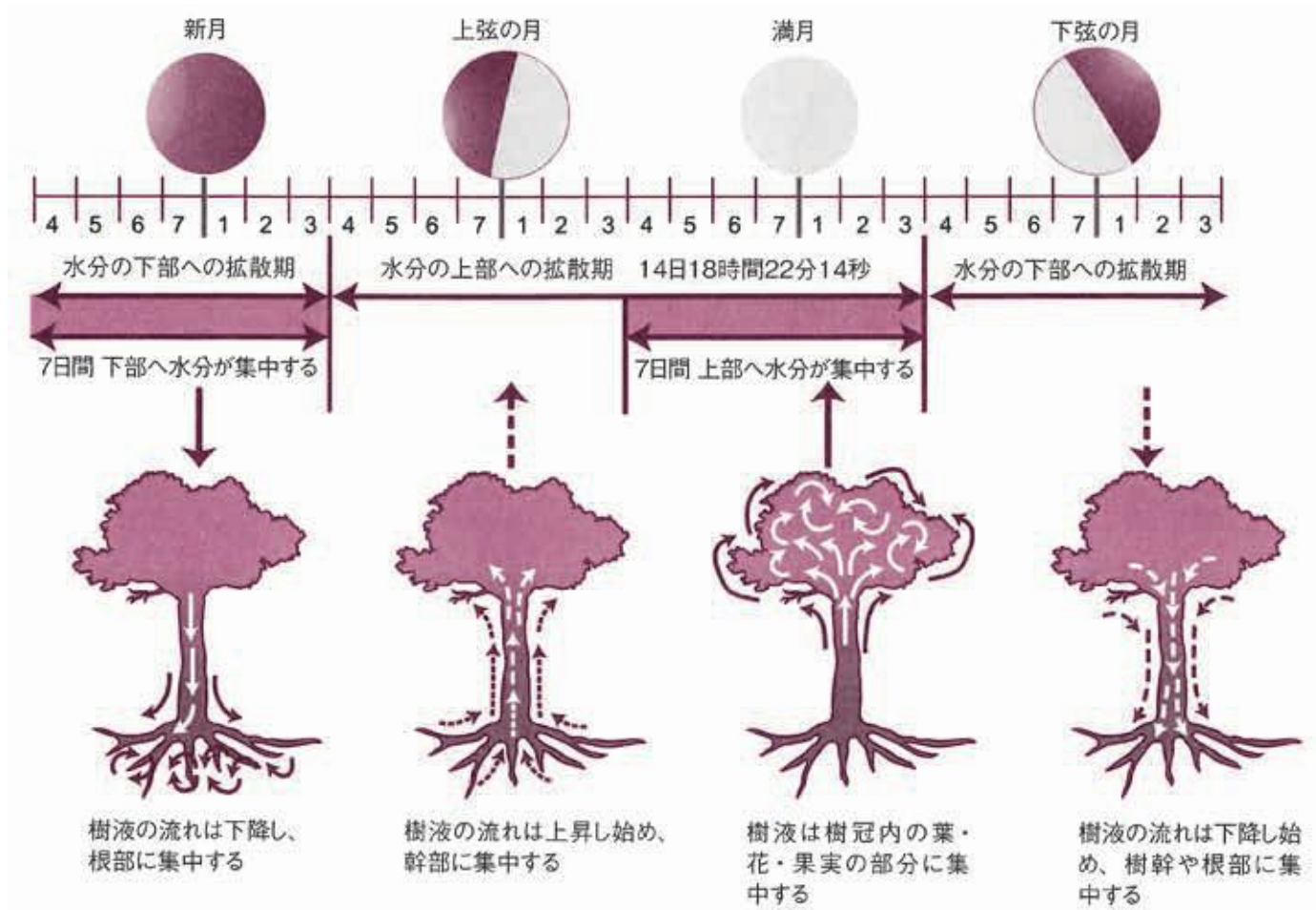
## 月齢が植物に及ぼす影響

月齢は干満の高低差に影響があると共に、植物の樹液の流れにも及んでいることが証明されている。それは植物の上部から次第に下降していき、茎を通じて最後に根を流れるという変化である。

この現象は、植物の地上部や太い幹などの、樹液が淀みなく流れる十分な通り道で観察されやすいが、低木では確認されにくい。

また、下図をみると、満月の時には月の引力により水分が上部へ、新月の時には水分が下部へ集中する事が分かる。よって、月の引力の強さにより植物の樹液の流れにかかる圧力の変化に関連しているという事である。

このことから、満月の大潮の日には干満の差が大きい為、植物の水分や養分の動きにも大きく影響する。



## ちよっこメモ

「月の引力」を関節的に見るこ  
とが出来た観光地が、佐賀県藤津  
郡太良町にある。

ここは、干満差が日本一の海であ  
る有明海に面しており、この町に浮  
かぶ大魚神社の海中鳥居が視覚的  
に見せてくれる。その差は最大で6  
メートル以上というから驚きである。



干潮時



満潮時

太良町ホームページ  
参考

## 月齢と果樹栽培

植物には栄養生長と生殖生長という生育段階がある。

栄養生長とは、植物が葉や茎などの栄養器官を増大させる生育段階の事である。それに対して生殖生長は花芽を形成して開花させ、種子を作ると言った次世代を作る生育段階であり、生殖生長は栄養生長が十分に行われた植物で起こる。これらの生育段階の中でも満月であれば生殖生長を、新月であれば栄養生長をより促進させる期間とされている。

また、果樹栽培に与える月の影響も様々あると言われている。

果樹の葉や茎などの栄養器官を増大に最も影響を与えるのは、三日月から上弦の月の3日後にかけてであり、この間は果実の肥大を遅らせる。

その一方で、満月の3日後から下弦の月にかけては、樹の生長を抑制し、果実を肥大生産するには都合が良いとも言われている。

樹齢がまだ若く、飛躍的な生長を望む時には、新月の真つ最中から二日月の最初の3日間で、樹液

の流れが下降し根部に集中するタイミングで剪定することを勧めている。逆に樹勢が強く、結実を増進させるためにその勢いを抑制したいときには、主に水分が上部に集中する満月に剪定する方が良いとされている。

これらの満月と新月の生理段階を理解した上で、施肥や灌水を行う事で、より良い効果が得られるとされており、樹勢の回復や病害の改善も効果が期待され、実際に行った生産者も治療に成功したという例もある。

	硝酸	生育傾向	播種	定植	害虫	病気
新月	高め	栄養生長	発根量少ない	活着良好	産卵少ない	多い
満月	低め	生殖生長	発根量多い	活着不良	産卵多い	少ない

新月と満月がもたらす効果の違い

当管内にも月のリズムを利用し、りんご栽培を行う生産者がいる。

その人達は、月のリズムと連動している潮の動きを読んでいる。スマートフォンやパソコンで、釣りなどに使う潮の動きが分かるサイトやアプリを使い、薬剤散布や施肥の計画を立てると言っている。どのような役立て方をしているのか紹介していく。

### 薬剤散布

薬剤散布で殺虫剤を加用する際に虫が動き始める時に散布することで、効率よく処理することが出来る。虫は動物よりも直接的に月齢を基に活動しているため、潮の動きを読むことで大抵の虫の動きも読むことが出来る。

その散布タイミングとは若潮という潮名であり、その前の中潮、小潮、長潮のタイミングで虫は休んでいるため、その次の若潮で散布することでより良い効果が得られると言っている。若潮に散布することにより、風が吹く可能性も低く、散布の際にSSの回転数を少し下げた状態で散布することが出来たと話していた。このことにより、薬剤は

ふんわりと果実や葉に付着させることが出来た。

また、薬剤の量も減らせて月齢を意識しない時の年間の経費よりも、節約することが出来たと言っている。

だが、若潮は15日に一回という間隔ではない為、春先の10日間隔での薬剤散布の期間では、なかなかそのタイミングでは散布出来ないと言っている。10日間隔での散布期間中に、15日間隔での散布期間に合わせる為の調整が必要だと言っている。若潮に限らず丁度いいタイミングでの散布は難しいが、意識することで少しでも近いタイミングで散布するとよい。

また、大潮防除というもう一つタイミングがある。満月か新月の時に虫は産卵することが多く、孵化直後のまだ弱い一齢幼虫を狙える事から、害虫の防除には効果が高いとされている。同じ大潮でも満月の方が効果が高いとされており、特に満月の3日〜5日後の産卵して数日経って孵化したころの防除が効果的だとされている。

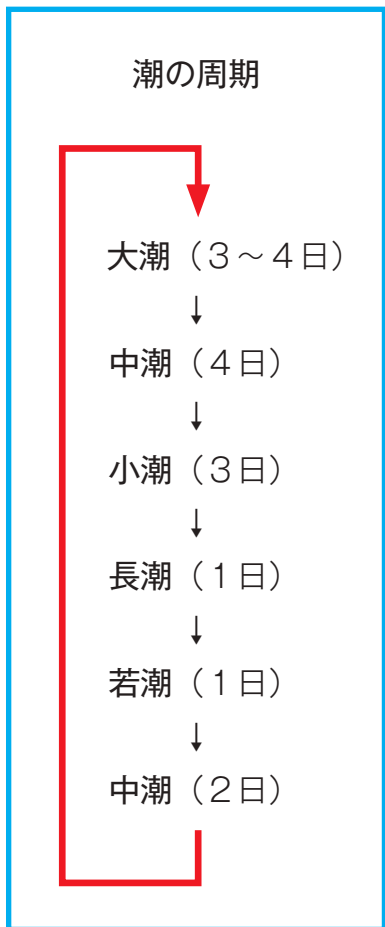
また、病害防除は新月を意識する方もいる。栄養生長と生殖生長のバランスを保ちながら長期間栽培

# 月のリズムを実際に活かした農業を行う生産者

例) 2020年6月カレンダー

	1 小潮	2 長潮	3 若潮	4 中潮	5 中潮 散布	6 満月 大潮
7 大潮	8 大潮	9 大潮	10 中潮	11 中潮	12 中潮	13 下弦月 中潮
14 散布 小潮	15 小潮	16 小潮	17 長潮	18 若潮	19 中潮	20 中潮
21 新月 大潮	22 散布 大潮	23 大潮	24 大潮	25 中潮	26 中潮	27 中潮
28 上弦月 中潮	29 小潮	30 小潮	○→潮名から見た理想の殺虫剤散布日 ○→月齢から見た理想の殺菌剤散布日 ・散布→実際に散布した日			

6月の薬剤防除日に月齢や潮名を当てはめてみた。すると、理想の散布日から2、3日遅れて散布している。展葉一週間後頃の薬剤散布をずらすことは出来ないが、その後の薬剤散布を雨前防除等のタイミングを併せながら2、3日ずらすことにより、理想の散布日に散布することが出来るようになる。



培する果菜類では、新月になると栄養生長に傾き、病気が発生しやすくなることから、新月の前に防除や微量要素の葉面散布で対処する考え方である。

**剪定等の作業**

剪定等の栽培管理も月齢を意識して行っている。  
剪定痕の治療が早まるとされている、二十六夜から新月の間に剪定をすることにより木の腐敗を防止、傷の修復を早めるとされている。接ぎ木であれば上弦の月の三日後から満月の三日後の水分が上部に集中している時期に行うこと、活着が最も良いとされている。

月齢と水分の動きを理解していく事で、樹の負担を減らす事に繋がるのではないかと推測される。

**月齢を活かしたこれからの農業**

これまでの事は正直信じている人は多くはない。だが実践して今までも作業効率が上がったことや、作物の品質が向上したこと、こういったデータを得ることで、生産者の所得向上や省力化、経費削減にまでつながることが出来るのではないか。

これから月齢のリズムと農業の関係が良い効果をもたらすことに期待し、注視していきたい。

参考資料  
月と農業  
ハイロ・レストレポ・リベラ 著